

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171500313		
法人名	有限会社 サラサホーム		
事業所名	サラサホーム		
所在地	中津川市手賀野403番地の5		
自己評価作成日	平成28年11月30日	評価結果市町村受理日	平成29年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvovsCd=2171500313-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvovsCd=2171500313-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成29年1月23日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2Fユニットは、男性2名と車椅子生活者2名、寝たきりの重度者の1名が共に生活している。日中や夕食後に居間にて皆さんとテレビ観賞したり全員が思いやりの心を持ち居室への行き来もあり、楽しく過ごせていると思います。  
3F ユニットは、空室が1部屋有りますが近日中に入所が決まっています。現在2名の方は入院中です。現時点では、6名で日常生活を和やかに過ごされています。皆さんが安心、安全に暮らせる支援を目標にしているところです。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市街地にありながら、四季が感じられる田園風景が目の前に広がり、恵那山を眺めることもできる環境にある。職員は地域住民と共に、利用者が、家庭的な温かい雰囲気の中で日常生活ができる様、寄り添いながら支援を行なっている。一時帰宅をした利用者が、「ここが一番」とか、「いつまでもここに置いてください」という言葉を職員にかけるほど、信頼関係が築かれている。管理者は、職員が勤務し易い職場環境作りを努め、職員は、常に自己研さんに励みながら、職員間で互いに学び合い、利用者主体の支援に積極的に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと動いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	重度化に伴いケア理念を変更し、数年になるが、その方に合った介護制度に取り組み実践している 重度者と元気な利用者が共に暮らしているが困難さを感じることもある	理念は「地域と連携し、家庭的な雰囲気の中で自立した生活の支援、重度化しても心地よく暮らせる支援」と掲げて、職員の目につきやすい場所に掲示し、日々ケアの中で確認し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長い年月を変わりなく地域の方々との交流は続いており、長寿会から小学校との福祉交流会、夏祭り、運動会、地域の方との介護実習等、途絶えることなく続けられている	自治会に加入し、地域の一員として積極的に交流している。地域の盆踊りや運動会に参加し、小中学生の福祉体験や高校生の福祉実習の受け入れをしている。また、11月11日の「介護の日」には、地域住民に「介護実習」として来所してもらい、食事作りを一緒にするなど、利用者との交流を継続して行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を理解して頂くために、「いい日いい日介護の日」を自習の日として、来所いただいている。今年で7回目の実習をしました		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では市町村の職員、区長、長寿会、防災関係の方々に参加され、サラサだよりにて行事の内容の報告を行い改善に努め質の向上に取り組んでいる	会議は、隔月の第3日曜日と決め、行政・地元代表・老人クラブ・協力医・防災業者・消防団・家族の参加で開催している。「サラサだより」を紹介し、ホームの現状や活動報告をし、意見交換を行なっている。会議で出た意見をサービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者の意見、介護相談委員の意見等を聞き入れながら、ケアサービスに活かせる様取り組んでいる	市担当者とは、日頃から、事業所の空き情報などを伝え、事例相談や法改正について、また、介護保険の動向を聞くなどして協力関係を築いている。行政主催の研修会に出席したり、介護相談員を受け入れ利用者サービスにつなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者や、すべての職員が身体拘束の弊害を認識し例外外の拘束は行なってはならないと自覚して安全を確保し自由な暮らしの支援に努めている	身体拘束・虐待防止の委員会があり、身体拘束ゼロの取り組みを行なっている。内部研修で職員に周知させ、安全で不安のない環境づくりに努め、身体拘束ゼロを実践している。言葉や服薬で行動を制限することなく、利用者へ寄り添う支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1～2回虐待についてのアンケート等を行い虐待が見過ごされないように防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2F ユニットには必要性の有る利用者様が居るが、現在も進展していない 3F ユニットには活用している方が1名入所されました		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に見学して頂き、その時点でも説明し納得して頂いた上で入所の手続きを行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度家族会を行っているが、その前にアンケートで意見を収集し家族会の場所で調査のまとめの報告をしている。 28年度の家族会では、インフルエンザのため報告のみで実施はできなかった。	「サラサだより」には、利用者の外出時や行事の際の写真、様々な行事報告や計画等を記載して家族に送付し、訪問時や電話などで意見や要望を聴いている。また、家族アンケートを実施し、アンケート結果をサービスに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の状況や実情を直に知っている現場の意見や、提案を聞く機会を設け反映させている	管理者は、職員と共に現場に入り、利用者の状況を把握しながら、職員の気づきや提案を日頃から聞ける関係性ができている。職員のチームワークも良く、互いに協力し合って勤務調整を行ない、定着率も良いが、管理者の運営業務の負担が大きい。	管理者の業務をサポートできるよう、後継者育成に向けて、各ユニットのリーダーを養成するなど組織的な人材育成の取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が向上心を持って働けるように、日頃の努力や実績、勤務状況等の把握はされている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の重要性を認識し段階に応じた研修の中で学びの機会を確保している 職員が働きながら技術や知識を身に付けていく 様に進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と市町村も交えてグループホーム部会等行い、研修の場を持ったり交流会を行いサービスの向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの状況等の違いが有る事も多いが本人が困っていること要望等に耳を傾けながら、本人が安心して暮らせるように支援に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所が決まった時点からご家族や本人の意見に耳を傾け、良好な関係で安心に暮らせる関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族が求めている支援を見極め、今後の暮らし方への対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日々介護するだけではなく、暮らしを共にする者同士としての関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の絆を一番大切に考え、その中でも職員とも絆が保てる様な関係づくりして共に楽しく暮らしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしている馴染みの場所等を継続して支援していきたいが近年の家族関係は大変に淡白なものとなりました 本人が求めている事については精一杯の支援は行なっております	地域の行事に参加したり、喫茶店・外食・買い物等で、利用者の馴染みに人に会う機会を作り、関係の継続を支援している。また、家族の協力を得て、利用者の意向を大切にできるよう、家族行事や祭事に出かけられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を大切に楽しく日常生活が送れる様に支え合って暮らせる支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても必要に応じて関係を大切に支援をさせて頂いている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族の先の人生の事を考えてアドバイスしたり、困った事などの相談も受け本人本位に検討している	利用者の思いや意向を、入居時のアセスメントや家族からの聞き取りから把握している。個別ケアでの会話や、利用者同志の行動、表情からも思いを把握するよう努め、一人ひとりの希望を優先しながら、利用者の心地よい暮らしにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が望んでいる事の把握に努め、ご家族と共に一番良いと思われたサービスの提供に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の話を聞きながら出来る力を少しでも長く継続出来る様に支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員、ご家族、必要な関係者と話し合いながら現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは職員全員で行っている。介護計画作成のためのサービス担当者会議は、家族が参加できる日時に開催し、関係者と話し合いながら作成している。参加できない家族には、要望や意向を詳細に聞き取り、内容を確認して計画を作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をもとに又、カンファレンス等で介護計画の見直しを行なっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況、その時々生まれるニーズに対応してサービスの支援に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安全でより豊かな暮らしを楽しめるよう地域、民生委員、病院等の地域の方々の力を借りる取り組みをしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診の他に本人やご家族が希望する医師に受診できるよう支援している	かかりつけ医は利用者・家族が選択して決めているが、ほとんどの利用者が協力医を受診しており、月2回の往診が有る。急変時は協力医と連携し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを医師に相談しながら、適切な受診を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	出来るだけ早期に退院できる様病院関係者と相談に努めている 病院関係者とは良い関係づくりが出来ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や、終末期の方針は同意書として文書化してご家族の方に説明を行い終末期の支援に取り組んでいる	重度化・終末期に向けた指針が有り、事業所の方針を説明し同意書を交わしている。利用者・家族・医師・関係者が十分話し合いを重ねて、適切に支援をしている。看取りの事例があり、チームで学び合いながら終末期の支援体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に3回の応急手当の訓練を実施している。体調不良時は責任者への連絡を焦らない様に努めている。実際の場面で活かせる技術を身に付けたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を問わず利用者が避難できる様に連絡網をピラミット型にし遠方の職員でも30分で参集できると共に地域住民との協力体制も築けている	年2回、地域の人を交えて、防災訓練や炊き出し訓練を行っている。防災業者のアドバイスや地域の消防団の協力を得て、災害対策に取り組んでいる。備蓄品や耐震性についても、定期的に点検し確認している。建物の横に避難階段を取りつけ、避難経路を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーには特に気を付けている 温かみのある言葉づかいと、優しいスキンシップで接している	職員は、常に、利用者の人格や尊厳を尊重した対応に努めている。温かみのある言葉かけや会話、視線を合わせたスキンシップを心がけ、利用者が居心地良く、穏かな日常生活を送れるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中では本人の思いや希望を表したり、自己決定出来る様に働きかけて対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員に合わせた介護はしてはならないと常々話し合っている。一人ひとりのペースに合わせたサービスは難しいところもあるが、自分で自分のペースで生活をされている為に見守りながら一緒に暮らしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみを支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備片付け等積極的に行なってくれる利用者が多く、職員と一緒に行き皆で美味しいと言いながら食べられる環境の中で生活を送っています	食事は、旬の食材や郷土食を取り入れながら、各ユニットで献立を考え、三食手づくりで提供している。職員が介助しながら、食材や出来映えを話題に会話を盛り上げている。利用者が他の利用者を見守る家庭的な雰囲気がある。職員と共に、定期的な外食も楽しんでる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の確保と栄養のバランスには気をつけて一人ひとりの状態や生活態度のパターンの把握は行なっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕食後の口腔ケアは全員が行い、一週間に一度はポリデントをしている。毎食後口腔ケアを行っている方もおられます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつ減らしに努めトイレでの排泄を心がけ支援しています。又、排泄時間の記録を残し把握が出来る様に支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンや、排泄習慣を把握し、トイレで排泄できるよう、声かけや誘導を行ない、排泄の自立につなげている。夜間はポータブルトイレの使用や、パッドを厚くしたり、大きめにするなどの工夫で対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対しては飲食物の工夫や運動への働きかけ等個々に応じて予防に取り組んでいるが、困難なことも多い		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事等あった時には入浴出来ないが職員の都合で中止する事はない。希望さえあれば毎日でも可能です	基本は、週2~3回の入浴であるが、毎日でも入浴できるよう利用者の希望に応じている。重度の人には2人の職員で対応し、コミュニケーションを図りながらゆったりと入浴出来るよう支援に努めている。体調が思わしくない利用者には、足浴や清拭、シャワー浴で対応している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり休憩の取れる時間帯の把握は出来ており一日を無理なく過せる生活習慣となっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用に対しての記録もあり常に症化は目配り確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴も必要だと思うが今求めていることを大切に日々穏やかに暮らせることへの支援に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化に伴い外出の頻度が少なくなってしまったのが淋しいです。それでも職員は下肢の筋力低下防止のために近辺への散歩支援を心がけている。外出も合同にて無理なく行っている	ホーム周辺の散歩コースを利用したり、近隣の喫茶店や外食、スーパーへの買い物等、利用者の希望に沿って外出支援をしている。利用者の状態によっては、1階のベランダから、庭園を眺めながら外気浴ができるよう支援している。年間行事では、花見・紅葉狩り・道の駅等に出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が要求している場合は家族の同意を得て買物をしているが、本人がお金を持ち歩く事はありません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が要求している場合には電話をすることはあるが手紙のやり取りを行なえる利用者はいなくなりました		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は車椅子で移動しても十分な広さがあり居心地良く過せる空間になっている	1階は、地域交流やイベントが出来る大広間となっており、行事の写真が飾られている。共用の間は広く、出窓には、観葉植物の鉢植えや人形が置かれている。3階には畳コーナーもある。亀とメダカを飼っており、餌やりが利用者の楽しみにつながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間では皆と一緒にカラオケ、テレビ等を楽しみ気の合った者同士会話もでき、良い雰囲気の中で生活が出来ている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前は馴染みの家具を持ち込みグループホームらしい生活パターンが有りましたが、近年は荷物もなるべく少なく本人本位で居心地良く暮らせるように工夫がされている	居室出入り口の暖簾はホームで用意し、利用者が選んでいる。ベッド・クローゼットが設置されており、安全に広く使える居室であり、トイレ付きの部屋もある。使いなれた小物や鏡、ぬいぐるみ等が持ち込まれ、利用者の好みに合わせ、居心地良く生活ができるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や混乱を招く事の無い物品の使用は取り除き、安心して生活出来る様に工夫している		